

㊫ 就学支援調査票〈在学児童生徒用〉

作成日：令和 4 年 8 月 1 日

ふりがな氏名	しなのがわ いちろう 信濃川 一郎		性別：		25 年 12 月 25 日生	8 歳
保護者名	信濃川 俊郎		学びの場	十日町市立 青葉小 学校 第 3 学年		
住所	〒 948 - 0192 十日町市 水口沢12					
保育・教育歴	園・学校名	学びの場		在籍期間		
	あおぞら保育園	通常の学級		H	27 年 4 月	～ R 2 年 3 月
	青葉小学校			R	2 年 4 月	～ 年 月
					年 月	～ 年 月
					年 月	～ 年 月
主な状況	障がいや傾向 ※ 必ずどれかに✓ (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> 学習障害 <input checked="" type="checkbox"/> 注意欠陥多動性障害				
	内容	ADHDおよび自閉傾向ありとの診断を受けおり、服薬している。 国語・算数での離席が多く、苦手な活動になると逸脱行動が多くなりやすい。また、思い込みで怒ってしまい気持ちの切り替えが苦手、身辺処理が苦手などの様子もある。				
	手帳取得状況	<input type="checkbox"/> 療育手帳 () <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 (種 級) <input type="checkbox"/> 精神障害者保健福祉手帳 (級)				
受診歴	機関名	受診期間	担当医	科名・病名・診断名・服薬・治療内容等		
	つまり医院	R2.10～	妻有野	発達外来 ADHD・自閉傾向有 処方：インチュエブ		
発達検査歴	検査名	実施年月	実施機関	結果		
	新版K式発達検査 WISC-IV	H30.12 R3.10	発達支援センター 学校教育課	認知・適応:96 言語・社会:80 全領域:89 FSIQ:91 VCI:86 PRI:111 WMI:73 PSI:99		
関係機関	機関名	利用期間		内容		
	発達支援センター	H30.8～R2.1		落ち着きのなさを主訴に、発達相談・訓練教室を利用		
その他、成育歴・経過等に関する特記事項						
小学1年生の2学期から保護者と特別支援学級の在籍について話をしてきたが、本人が特別支援学級への在籍を嫌がってきた経緯がある。しかし、本人も2年生の3学期から学習面や友達関係が上手いかないことを気にするようになり、現在は特別支援学級への在籍も考えるようになってきている。						

児童生徒氏名：(信濃川 一郎)

現在や将来の生活についての願い・希望（進路含む）、本人の生活実態における興味関心（得意・不得意）	
本人の願い・希望	友だちと楽しく遊びたい。 勉強は難しいけど、わかるようになりたい。
保護者の願い・希望	授業中、先生の話聞いて勉強に取り組むことができるようになってほしい。 友だちと一緒に楽しく学校生活を送れるようになってほしい。
得意なこと 好きなこと	ゲーム（マイクラ）、YOUTUBEでやマイクラの動画を見るのが好き。（本人、母） ブロックやレゴで自分で考え、好きな物をつくることができる。（母） 図工の時間など、自分で工夫して独創的な作品をつくることできる。（担任）
苦手なこと 心配なこと	勉強がわからなくて難しい（特に国語と算数）。一度に沢山のことを言われると頭がワーンとなっちゃう。（本人） 人の話を最後まで聞いて理解することが苦手。落ち着きがない。（母）（担任）
運動機能	体育等の授業や体を使った運動は得意。ただし、手先を使う作業は苦手で、うまくできないと怒って取り組みをやめたり、席を立ててしてしまいやすい。書字も雑になりやすい。
学習状況	目新しいものには興味を持つが学習への意欲が乏しく、同じ学習活動だと長続きしない。国語・算数を苦手としており、漢字や計算の能力は2年生の内容になると取り組みが難しくなる。単元ごとのワークテストでは未記入の部分が多く20点程度。保護者の話では宿題にはほとんど取り組まない。
社会性	語彙は少なめだが言語表現力に問題はない。自分の思いを一方的にしゃべることがあるが人懐こい性格である。服薬により、席についている時間は増えたが、特に国語と算数の時間の離席はまだ多く、床に寝転がったり廊下に出たりする。自分が苦手だと思えば取り組みをやめたり、自分の思い込みで怒ったり、友だちにちょっかい出したりすることもあり、周囲の児童から注意されてしまうことがある。
身辺自立	着衣からシャツが出ていたり手洗いを省略しがち等、衛生面がおろそかになりやすい。着替えにも時間がかかる。物の管理が苦手で、机やロッカー周りは物が散らかり、忘れ物や失くし物が多い。好き嫌いが多く、1年生の頃は給食を嫌がったこともあったが、苦手なものも少しずつ食べられるようにはなっている。
支援必要度	しばしば、個別支援が必要である 学習への意欲や集中が続かず、国語・算数の時間は特に個別の声かけや支援を要する。また、国語・算数の時間は、逸脱行動が多いため、可能な限り支援員に入ってもらっている。
具体的支援	学習の見通しが持てるよう毎時間の学習予定や重要なことを板書するなど、言葉だけでなく見て確認できるように配慮している。離席してしまう背景には、学習面の苦手さも関連しているため、本人の理解に応じた教材を用意したり、適宜、本人の取り組み状況を確認し、個別に声をかける。また適切に取り組んでいるときには本人の頑張りを認める声掛けを行っている。
備考	

上記の計画について了承し、確認しました。

進学先や関係機関と連携するために、本計画を必要に応じて開示することに同意します。

令和 年 月 日

保護者氏名

検査等	検査名	実施年月	結果等					
	学力検査	R4.4	NRT：	国語 31	社会 —	算数・数学 35	理科 —	英語 —
	知能検査	R4.4	教研式知能検査 ISS：46					
	チェックリスト	R4.7	学習面：	聞く 13	話す 5	読む 12	書く 14	計算する 10
		行動面A：	不注意 7	多動性 6	行動面B：	対人関係やこだわり等 25		
運動機能	体育等の授業や体を使った運動は得意。ただし、手先を使う作業は苦手で、うまくできないと怒って取り組みをやめたり、席を立ててしてしまいやすい。書字も雑になりやすい。							
学習状況	目新しいものには興味を持つが学習への意欲が乏しく、同じ学習活動だと長続きしない。国語・算数を苦手としており、漢字や計算の能力は2年生の内容になると取り組みが難しくなる。単元ごとのワークテストでは未記入の部分が多く20点程度。保護者の話では宿題にはほとんど取り組まない。							
社会性	語彙は少なめだが言語表現力に問題はない。自分の思いを一方向的にしゃべることがあるが人懐こい性格である。服薬により、席についている時間は増えたが、特に国語と算数の時間の離席はまだ多く、床に寝転がったり廊下に出たりする。自分が苦手だと思えば取り組みをやめたり、自分の思い込みで怒ったり、友だちにちょっかい出したりすることもあり、周囲の児童から注意されてしまうことがある。							
身辺自立	着衣からシャツが出ていたり手洗いを省略しがち等、衛生面がおろそかになりやすい。着替えにも時間がかかる。物の管理が苦手で、机やロッカー周りには物が散らかり、忘れ物や失くし物が多い。好き嫌いが多く、1年生の頃は給食を嫌がったこともあったが、苦手なものも少しずつ食べられるようにはなっている。							
支援必要度	しばしば、個別支援が必要である 学習への意欲や集中が続かず、国語・算数の時間は特に個別の声かけや支援を要する。また、国語・算数の時間は、逸脱行動が多いため、可能な限り支援員に入ってもらっている。							
具体的支援	学習の見通しが持てるよう毎時間の学習予定や重要なことを板書するなど、言葉だけでなく見て確認できるように配慮している。離席してしまう背景には、学習面の苦手さも関連しているため、本人の理解に応じた教材を用意したり、適宜、本人の取り組み状況を確認し、個別に声をかける。また適切に取り組んでいるときには本人の頑張りを認める声掛けを行っている。							
保護者希望	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級＋通級指導 (発達障害) <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 () <input type="checkbox"/> 特別支援学校 () 身辺処理が身についておらず、授業中の離席が多く学習成果も上がっていないようなので通級指導教室や特別支援学級で本人にあった指導をうけさせたい。国語・算数の学習指導と身辺処理の指導を受けたい。							
校長所見	学びの場の判断	特別支援学級 (自閉症・情緒障害)						
	4年生になり学習の難易度が上がると、さらに不適応行動が増える可能性が高いと思われる。特別支援学級 (自閉症・情緒) に在籍し、集団にあわせて活動する力や気持ちをコントロールする力を身に付けていけるとよい。							
専門員所見	学びの場の判断	特別支援学級 (自閉症・情緒障害)						
	苦手な活動は取り組みを嫌がって逸脱行動が増えたり、思い込みで怒り出したりすることがある。また、身だしなみに衛生さが感じられない等、生活面での支援も必要になる。学力を高めることとあわせて、自己統制力、気持ちや身体をコントロールする力、生活面のスキルを高めるための指導が必要となるため、特別支援学級 (自閉症・情緒) への在籍が望ましいと考える。							